



萩市須佐地域

公民館だより

令和7年

2月

第619号

須佐地域生涯学習推進
マスコット「まな坊」

※題字は昭和48年発刊第1号時のもの

集おう！学ぼう！
手をつなごう！

発行/須佐公民館 〒759-3411 萩市大字須佐4570-1 TEL08387-6-2310 FAX08387-6-2030
弥富公民館 〒759-3302 萩市大字弥富下4043 TEL08387-8-2044 FAX08387-8-2212
特定非営利活動法人 須佐元気なまちづくりネット

祝

3回連続金賞受賞！

第10回全国公民館報コンクール



コンクールへ応募した
公民館だより



R6. 8月号「ボッチャ大会」



R6. 7・8月号「特集対談」

今月の話題

- 表紙：全国公民館コンクールへ応募した
公民館だよりの写真から
関連記事2ページ・・・・・・・・・・2、3P
- 冬休み：子ども達楽しく活動・・・・・・4、5P
- 文化財を守ろう！現状変更は届け出を！・・・・12P
- エンジョイグラウンドゴルフ大会予告・・・・14P



R6. 7月号「さつまいも苗植え」

住民とつながる公民館だより

住民目線で取り組んだ 広報作りが評価される！



全国公民館報コンクールは、平成18年から隔年で開催されており、公民館報のさらなる発展と、公民館における広報活動の資質向上を図る事を目的に、公益社団法人、全国公民館連合会が主催で行っています。

須佐公民館は、平成20年の第2回目から応募しており、最初は、受賞には至らなかったものの候補には選ばれていたと聞いています。それから、公民館だよりを作る意欲は高まり、紙面も新たに構成を変えるなどしながら、第3回目には優良賞を受賞。第4回目から5、6、7回と連続優秀賞を受賞。最優秀賞への壁は高く、それでも紙面を見返しながら作成に取り組みました。

令和になってから、受賞の形が変わり、最高賞が金賞へと変わりました。また、その頃からコロナウイルス感染症が猛威を振るい、各行事等が中止になるなど、記事自体も少なくなり、公民館だよりを作成するのに困難な時期が続きました。

周りからは、コンクール応募を意識した作成は、本来の公民館だより

の目的と違っているのではないかと指摘する人もあり、もう一度本来の主旨に戻り、住民目線での公民館だよりを作成をしていこうと、編集委員皆で決意しました。

令和2年から、公民館だよりの紙



公民館だより編集会議の様子

面を一新し、第8回のコンクール受賞に力を入れるとともに、住民の皆さんが読んで、面白く、楽しい、そしてほっこりとなるような紙面作りに取り組んできました。その結果、第8回、9回、そして今回10回と3回連続最高賞の金賞を受賞することができました。

いつも新鮮な内容の 公民館だよりに…

昭和48年から今日まで51年間続いている公民館だよりは、諸先輩方の汗と努力の結晶です。毎月欠かさず発行されてきた公民館だよりですが、平成25年7月の須佐豪雨災害の時には、片付け作業に追われながらも、災害関連の記事を紙面に、4ページほど作成することができ、なんとか欠かすことなく次へつなげることができました。

公民館だよりは、その時その時の須佐地域の歴史を繋ぐ広報紙でもあります。だからこそ、内容をマンネリ化せず、常に新鮮な情報発信を住民に届けるように心掛けています。

また、皆さんに楽しく読んでもらうため、一人でも多くの方が紙面に登場できるよう、年度替わりには新しいコーナーを考え、また、皆さんの笑顔をいつも想像しながら、毎月作成しています。

今後も、公民館行事や他行事等にご参加いただいた方には、記録写真とともに、公民館だよりへ多くの地域住民の方を載せていきたいと思いたすので、ご理解とご協力をよろしくお願いします。こちらもしっかり頑張つて、良い写真を撮ろうと思います。



【これまでの受賞経歴】

●山口県公民館報コンクール

昭和51年度	奨励賞
昭和52年度	奨励賞
昭和54年度	優秀賞
昭和55年度	奨励賞
昭和56年度	優良賞
(4年間)	
昭和59年度	奨励賞
昭和60年度	奨励賞
昭和64年度	奨励賞
平成元年度	優秀賞
(11年間)	
平成10年度	奨励賞
平成14年度	優良賞
平成15年度	特別賞
平成18年度	奨励賞
平成19年度	会長賞
平成20年度	優秀賞
平成21年度	優良賞
平成22年度	会長賞
平成23年度	優秀賞
平成24年度	優良賞
平成26年度	優秀賞
(3年間)	

●全国公民館報コンクール

第2回(H20年度)	一次審査通過
第3回(H22年度)	優良賞
第4回(H24年度)	優良賞
(4回)	
第7回(H30年度)	金賞
第8回(R2年度)	金賞
第9回(R4年度)	金賞
第10回(R6年度)	金賞

公民館だよりの歴史

51年間続いている公民館だよりのすが、これまで何度も紙面構成などをしながら、常に最新の情報を住民の皆さんに届けようという思いで頑張ってきました。

そんな公民館だよりの歴史を振り返ってみます。

○第1号（昭和48年5月）から第70号（昭和54年5月）までは、ほとんどが手書きのB4版1枚でした。

○そして第22号（昭和50年2月）までは、写真やイラストがたまに入ってくるくらいで、文字が中心の広報でした。

○その後、ワープロやパソコンでの活字となり、字の大きさ（ポイント）もだんだんと大きくなり、見やすくなりました。また、横書き



きだったのが縦書きとなり、写真やイラストも少しずつ入るようになりました。

○紙面構成も少しずつ変わり、平成元年からページ数も8P、12Pと多くなりました。

○カメラもフィルムからデジタルに変わり、きれいな写真を直接パソコンにとり入れることができ



るようになりました。（カメラの質が良くなってきた分、写真に欲が出てきて、写真教室を開いて、職員も一緒に学ぶようになりました。）

○それから時は経ち、少しマンネリ化してきた公民館だよりを新鮮なものに変えるため、令和6年4月から内容を少しずつ変えています。

一つは、以前「すさ広報」で掲載されていた赤ちゃん

コーナーを復活させ「我が家のアイドル」として、須佐地域の

0才から5才までの子どもさんを紹介。

また、40年前のまだ元氣だった頃の須佐

を「すさ広報誌」から引用して懐かしい写真などを掲載し、住民の皆さんに元氣を取り戻して欲しいと思っています。



まだまだこれからも、公民館だよりの歴史は続いていくと思えますので、皆さんからも「こんなことがあった」「こんな写真が撮れた」など面白い情報等ありましたら、是非、須佐公民館までお寄せください。

また、「俳句・短歌のコーナー」

「我が家のアイドル」への投稿もお待ちしております。

★公民館だよりのお問い合わせは：

須佐公民館 ☎2310へ

「我が家のアイドル」への投稿も

お待ちしております。

★公民館だよりのお問い合わせは：

須佐公民館 ☎2310へ

「金賞」受賞報告を霊前に！ 西村武正さんを偲ぶ

今回の受賞を一番早く伝えたい方が、去る1月13日この世を去られました。その方は、公民館だよりの発行に対して非常に理解のある西村武正さんです。



生前の頃の西村さん

西村さんと最後にお逢いしたのは、12月27日公務納めの寒い日でした。自宅から身内の方が止めるのも聞かず、三輪自転車で公民館（片道400m）まで、奥さんの俳句を持参されました。帰りには、「すまんが尻を抱えてサドルに乗せてくれ」と頼まれました（体力の限界だったのでしょうか？）。本当に大丈夫かなと後姿を見てみると、山根丁筋の道をゆっくりペダルを漕いで登っておられる姿が最後となりました。聞くところによりますと、翌日救急車で入院され容態は回復されることはありませんでした。

これだけ公民館だよりに対しての気力は、私自身今まで見たことも聞いたこともありません。西村さんのような方に公民館だよりを、長く支えて頂いたことは決して忘れてはならないものだと思います。

この場を借りて、少し西村さんとの公民館の思い出話を語りたいと思います。

西村さんは、町誌編纂完了後、須佐公民館の文化財指導員として勤務、町誌で書き足らなかった「須佐町の地質」や「郷校育英館」「須佐地域の食文化」「益田氏と須佐」を編集・追加発行されました。また、公民館から独立した24時間図書館「まなぼう館」の館長として長年勤務され、地域の読書活動の推進に寄与されました。



「うたごえ6. 3会」で指揮者をしていた頃

また、幕末体験育英塾では、約30年間塾の塾長として子ども達の体験学習を支援されました。

各種団体の活動では、郷土史研究会やふれあいコンサート、生涯学習発表会など歴史・文化振興で技能を発揮されました。須佐地域の今日を支えて頂いたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございます。合掌

冬休みの子ども行事

手作りのしめ飾りで お正月を…

須佐のびのび教室

師走の慌ただししい12月25日（水）、毎年恒例の「しめ飾り作り」を須佐公民館で開催し、小・中学生と地域の方16名が参加しました。

講師は、斉藤精さん（本町下）。はじめに、お正月になぜしめ飾りを飾るのか、その由来や意味を知っていただき、また、しめ飾りを飾る時期を説明しました。

しめ飾りをかざる日は、12月28日まで。29日は「二重の苦」ということで縁起が悪く、31日は「一夜飾り」となる（神様は、前日に慌ただしく準備を行うことを嫌うこと。また、葬儀の飾りが一夜飾りである）ことから縁起が悪いと言われています。



おばあちゃんと一緒にしめ飾りを作る子ども達



いよいよしめ飾り作りです。最初に作るのは、土台となるしめ縄作りで、わらが材料となります。普通は右縄で縄（な）いますが、神事は左に縄います。このしめ縄作りが一番難しく、毎回誰かが苦戦しています。

子ども達

も必死で縄

おうとして

いるのです

が、手を滑

らせてわら

をねじる時

に、もう片

方のわらと

ごっちゃに

なってしまう

たりしてい

ましたが、

何度も練習

しているう

ちに上手に縄うことが出来るようにな

りました。その後、シダやユズリ

ハ、橙の代わりに小みかんを付けて、

りっぱなしめ飾りができました。

苦勞して作ったしめ飾りは、玄関

などに飾って、きつといいお正月を

迎えることができましたでしょう。



最後にしめ飾りを持って記念撮影

老人クラブと交流

弥富子ども大会



12月21日（土）、弥富子ども大会を弥富交流促進センターで開催しました。コロナやインフルエンザの流行などで近年中止が多く、3年ぶりの開催となりましたが、今回は須佐地区の子どもも含め、地元小学生と保護者、老人クラブの方を合わせて27名と多くの参加がありました。

行事の前半は、恒例のしめ飾り作りです。老人クラブの皆さんにご指導いただきながら、自宅で飾るしめ飾り作りを親子で挑戦しました。初めて挑戦する子や低学年の中には、わらをうまく縄うことができない子もいましたが、老人クラブの方の手ほどきを受けながら、上手に作るこ



みんなで輪になってしめ縄づくり

とことができました。親子で参加できたこともあってか、子ども達もいっもより楽しく、集中して体験することができたようです。作り終えた後は、自分で作ったしめ飾りを持って、全員で記念撮影をしました。

しめ飾りづくりの後には、ポッチャで交流しました。8チームに分かれて、2ブロックの総当たり戦を行い、最後に決勝戦を行いました。ポッチャは初めてという参加者もいましたが、すぐに慣れ、ポッチャを楽しむことができたようです。どの試合も接戦が多く、いろいろな駆け引きがあり、大変盛り上がりを見せました。



ポッチャで交流

最後に、老人クラブの皆さんへのお礼のあいさつをした後、子ども達はお土産をもらって解散しました。ご指導いただきました、老人クラブの皆さん、ありがとうございました。子ども達は須佐の学校に通っているため、地元の方と触れ合う機会が以前より少なくなってきました。子ども会としても、このような交流機会を大事にしていければと思います。来年度も多くのご参加をお待ちしております。

「ワカサギ釣りに 行っただよ！」

弥富公民館



弥富地区子ども会育成連絡協議会で冬休みの特別企画として、1月6日（月）に豊田湖へワカサギ釣りに行きました。

弥富地区の児童4名と保護者の方など合わせて7名での参加となり、人生初のワカサギ釣りに子ども達は、とても楽しみな様子でした。

豊田湖に到着し、まず管理棟で釣り竿を借りて、五嶋雄一郎先生をはじめとするワカサギ釣り名人のお二人にご指導いただきながら、仕掛けを作っていました。

準備ができたら、早速、ワカサギ釣りの開始です。子ども達は、釣り名人にワカサギ釣りの大事なポイントを教えていただきながら、釣りを楽しみました。名人所有の魚群探知機でワカサギの群れの位置を教えて



4匹一度に釣れたよ！

いただき、開始早々、たくさんワカサギを釣り上げることができ、子ども達も「釣れたよ！」と、とても嬉しそうな様子でした。子ども達はどうどん上達し、微妙な当たりにも上手に竿を合わせ、中には4匹同時に釣れた子もいて大興奮。貴重な体験となりました。

最後に、釣り上げたワカサギをみんなで見ると、206匹の大漁でした。最近上手な人でも釣れないことが多い中で、この大漁に、名人達も驚いておられました。あいにくの雨模様でしたが、このような天候も大漁につながったのかもしれない。



名人と一緒に記念写真！



バケツ一杯釣れたね

最後に、五嶋名人からワカサギのお土産もいただき、子ども達から「また、来年も来たい」という声が聞かれ、とても有意義な一日になりました。懇切丁寧にご指導いただきましたお二人の名人、誠にありがとうございました。

年神様を見送る 火祭り行事

弥富どんど焼き



毎年恒例の「どんど焼き」を1月11日（土）に、弥富グラウンドで行いました。この「どんど焼き」は「弥富福寿クラブ」「鈴野川福寿クラブ」「弥富でつぴん会」「弥富公民館」の共催で実施しています。

当日は、雪模様の天気でしたが、子どもと大人合わせて約40名と多くの参加がありました。

開会行事の後、それぞれ持参したしめ飾りや書初めをどんどやに入れ、老人クラブと子どもの代表2名の方に点火をしていただきました。炎は大きく燃え上がり、皆さん歓談をしながら暖をとることができました。



いよいよ点火！気を付けて...

グラウンドには雪が積もっており、どんど焼きの側で、子ども達は雪だるまを作ったり遊び、とても風情のある光景でした。

火が落ち着いた頃を見計らって、農事組合弥富5区にご提供いただきましたさつま芋もで、焼き芋をいただきました。また今回は、豚汁も用意し、参加者全員で美味しく食べました。



焼き芋を食べる子ども達

新年の弥富の伝統行事として、これから地区の皆さんと一緒に継続していきたいと思えます。ご参加、ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。

※「どんど焼き」とは...



1月15日に行われるお正月の伝統行事。この火で焼いたお餅を食べると無病息災で過ごせる。また、燃やした書初めの火が高く上がると、字が上達するとも言われている。

暮らし歳時記から

生き活き教室



ワイワイ、ガヤガヤ お正月遊びで賑やかに！

つどい会

新年明けましておめでとうございます。2025年初めてのつどい会(1/8)は、新年会を開催しました。午前中はレクリエーションをして楽しみました。最初のゲームは、ジェスチャーゲームです。参加者にイラストカードを引いてもらい、カードのイラストをジェスチャーで表現し当ててもらいました。答えが解った人はピンポンブザーを押してから答えるのですが、いざゲームを始めるのと「あつ、汽車じゃない!」ととつ



これは何のジェスチャーかな？

さに答えてから、「あつ、これ押すんだった!」とボタンを押すことを忘れるぐらいに熱中されていました。

2回戦からは、引いたカードの右上に人のマークが書いてあればジェスチャー、音符のマークが書いてあればオノマトペ(音で表現)で当ててもらいました。これが結構盛り上がりしました。

また、放課後子ども教室の子ども達で作成した人生すごろくでは、「結婚を両親に反対され4マス戻る」のマスに何度も引つ掛かり、なかなか先に進めなくて「また反対されたあ!」と悔しがる人もいました。



サイコロを転がして楽しむ参加者

その後、まだお昼までの時間があつたので、百人一首も行いました。すべてのレクリエーションを終え、お弁当を食べるとすぐに帰ろうとされましたが、最後に福笑いでもしっかり遊んでもらいました。「目隠しするだけで、全然わからない!」「これも脳トレになるね」「今日は頭もすっかり使ったし、楽しかったね」と皆さん喜んでいました。

公民館行事



今年の願いを書き初めて

須佐さつき学級

1月9日(木)、須佐公民館で「書き初め」を行いました。子ども達が学校の宿題で書初めを書くというのがありますが、大人が書くというのとは、なかなかありませんね。

そこで、新年早々、書き初め展をしようと思い、この学級で書いていただき、放課後子ども教室の子ども達が描いた書き初めと一緒に、須佐公民館の1階ロビーに展示しようと思います。

参加者は、墨の準備をしながら「久しぶりに筆を持つね」「もう何年も前のことだから、上手に書けるかねえ」と言いながらも、どんな文字を書くか、事前に準備してきてい



一筆一筆丁寧に書く参加者

る参加者もいました。今回は、止めや跳ねなど細かいことは言わずに、書きたい文字を自由に書くことにしました。

早速書き始めると、一文字を半紙いっぱい書く人、詩のような言葉



書いている人を見て学ぶ参加者

を書く人、二文字を慣れた手つきで書く人など人それぞれ。書き始めると、皆さんだんだん調子に乗ってき、いろんな文字を書いたり、少し遊び心で絵も描いたりなど、書くことが楽しくなってきたようでした。最終的には、展示用に一人1枚から2枚提出していただきました。「またやりたいね」という声に来年も是非、開催したいと思っています。なお、今回書いて頂いた書き初めは、放課後子ども教室の子ども達の書き初めと一緒に、須佐公民館1階ロビーに展示しますので、皆さん、是非ご覧ください。(2月13日まで)

地域トピックス

喜びの二十歳



年明けの1月2日、萩市民館で「二十歳のつどい」が開催され287名が出席されました。

須佐地域の対象者は16名で、そのうち13名が出席されました。一緒に来られた両親も喜びの中、市民館の外で何枚も写真を撮ったりしていました。

また3日には、令和3年1月2日に再延期となっていた成人式も開催され、2日続けて晴れ着や着物姿の成人者が萩市内を彩りました。

消防出初式



勢ぞろいする須佐地域の消防団員

1月12日(日)、毎年恒例の消防出初式が、須佐総合事務所玄関前で行われました。

式では、須佐総合事務所長と方面団長のあいさつの後、表彰受賞者の紹介がありました。この後の一斉放水は、水はけ等の問題で中止となりました。

今、全国や世界的にも火災が多く発生しています。今年は、須佐地域で火災が出ないよう、消防団員に見守って頂くとともに、住民の皆さんの毎日の生活の中で、火災予防に努めていただきたいと思います。



田万川地域と須佐地域合同の記念写真

児童と「人権」を学ぶ

育英小学校

1月15日(水)に育英小学校にて人権教育参観日と人権教育講演会が行われました。

参観では人権にかかわる授業が行われました。5・6年生の教室では職業選択の自由が日本国憲法により保障されているという説明の後、将来どんな仕事に就きたいか、どんな自分になりたいかについて一人ずつ発表が行われました。

児童は事前に、まなぼう館の方々と一緒に自分の将来について真剣に向き合ったそうです。発表はタブレット端末で作成したスライドを画面に表示しながら、プレゼンテーションするという形式でした。将来なりた



将来になりたい職業について話す児童たち

い職業としては美容師、地方公務員、プログラマー、リフレクソロジー、スーパールの店員、お花屋さん、サッカ―選手、実況アナウンサー、保育士、パン屋、畜産農家、YouTuber(ユーチューバー)などが挙げられていました。

発表の後には、須佐ゲストハウス「ぽつとで」のオーナー人見さん(北谷)から、これまでの職業とゲストハウスを開きたいと思うようになった経緯についてのお話がありました。児童のこれからの職業選択やなりたい自分についての道しるべの一つになるようなお話でした。

人権教育講演会では、「個性を伸ばして生きる」というテーマで和田山企画代表の大橋広宣さんが講師を務められました。ユー



大橋広宣さん

モアあふれるお話やクイズタイムで子ども達をひきつけた後、小学生時代にあったいじめの経験についてや現在の自分の好きで得意な「映画」に関する仕事をしているというお話もありました。見に来た大人も人権について考えさせられる良い参観日でした。

子育て支援日記

【テーマ／私の子育て】

子育てを振り返り、

今思うこと



育英小学校教頭 児玉 慶太

私が父親として子育てを始めたのは、今から20年前、娘が生まれた瞬間でした。その時の感情は今でも鮮明に覚えています。小さな命を手にして、健康に生まれてきてくれた喜びと妻に対する感謝の気持ち、そして強く感じたのは「責任」という言葉でした。子どもが成長する過程で、親としての役割がなんとなく分かっている、それと同時に私自身も多くのことを学び変わっていったような気がします。

1、初めての父親としての実感

娘が生まれた時、父親になる準備ができていたのかどうか、自信が持てない部分がありました。しかし、娘の顔を見るたびにその不安は少しずつ消えていきました。何より娘が泣いているとき、私が抱き上げるとその泣き声がピタリと止まる瞬間がありました（ごく稀ですけど）。その瞬間、私は「自分が父親でよかった」と心から思いました。子どもは一日一日成長していきます。最初は

おむつを替え、ミルクをあげることが精一杯でしたが、次第に言葉を覚え、歩き始め、学校に通い始めると、私の役割も変わっていきました。特に、学校生活や友人関係で悩み始めた時期は、どのように支えてあげべきか、私自身も悩みました。

2、子どもとのコミュニケーション

子どもとのコミュニケーションを大切にしようと思いがけました。始めは「お父さん、あれやって!」と言われても、何をどう返事をすれば良いのか分からなかったこともあり、男の子ならこんな遊びができるのと思うこともありましたが、娘が少しずつ成長する中で、娘が何を考え、何を感じているのかを理解しないといけないかと考える



3、親としての葛藤と成長

進学の問題は私たち親にとって大きな悩み事でした。私自身も父親として、どう導くべきか悩み迷うことが多々ありました。大学進学の際、娘がどんな道を選ぶかは、親にとっても非常に大きな決断でした。正直

ようになりました。そのために、彼女が話すことに耳を傾け、共感することを心がけました。

思春期に入ると、私たちの関係も一時的に疎遠になることがありました。友達や学校のことに夢中になり、家ではあまり話をしなくなった時期もありました（母親にはしっかり話をしていました）。その頃は、「どうしてもっと私に話してくれないんだろう」と寂しい思いをしたものです。（後の話では、娘は私に遠慮していたようです。私の背中に飛びつきたい気持ちがいつもあつたようですが、恥ずかしさなどで我慢していたようです。）それでも、何か大きな出来事があった時や悩みを抱えている時には、必ず私に相談してくれました。そんな時に、「この子の支えにならなくて」と感じることもができ、心から嬉しく思いました。

なところ娘には徳逸した技能があるわけではありませんが、娘には広い世界を見てもらい大きく羽ばたいてほしいといった思いがありました。娘には「教員にならなくていいよ。世の中いろんな仕事があるんだから。」とよく言っていました。この仕事の大変さを知っているからでた言葉であり、同時に心のどこかでは教員になつてほしいという思いもありました。しかし、最終的に私は娘の選択を尊重し、彼女が自分の人生をしっかり歩んでいけるよう支えることを決めました。妻も教員をしており、その影響か教育学部に進学しました。

4、20年目の今、父親として

長女が20歳を迎え、私は改めて自分の子育てを振り返ることができました。娘と一緒に歩んできたその時間が、私にとって何よりも貴重で尊い時間であつたと感じています。

今、娘は大学に通い、将来に向けての道を切り拓いています。私ができることは、これからも変わらずサポートし続けることです。時にはアドバイスをし、時には何も言わずに見守ること。それが父親としての私にできることだと思っています。

娘にはまだまだ先の長い人生です。月並みではありますが、父親として娘の幸せを願う、今日この頃です。





旧須佐町中央公民館

文化振興救援のために・・・

翌年が吉田松陰誕生150年の年を向かえるにあたり、萩市が記念行事を挙行予定、急遽吉田は吉田である私にその役割が当たり、文化・生涯学習課へ平成21年4月に異動となりました。萩市では、吉田松陰は神様のような方で松陰の下には必ず先生が付くという方です。

この事業は、文化庁の助成事業ということで、ある程度文化に詳しい者(詳しくはないが)があたるべきと公民館活動に精通した者に白羽の矢が立ったと後から課長の話を聞きました。

いずれにせよ、記念日までのリリース(救援投手)的なものと簡単に考えていましたが、わずか2年間ではあるが内容は濃密なものでした。

まずは、どんな形でこのイベントが成り立っているのか、そこから調

べる事から始まりました。

全くの素人集団で、劇まがいなものが出るのか不安を抱えていましたが、ミュージカルの素地は、平成10年(1998)明治維新130年記念事業として、当時の萩スカイシネマで5公演を行っているという実績があるという話を聞き、ひとまずは安心したところです。



当時のチラシから

しかし、あれから10数年経過しており、まずは一から参加者を募集

することから始まりました。募集については、前任者が一部手掛けていたこともあり、5月の連休明けに応募者全員及びスタッフとの顔合わせから始まりました。

参加者は、遠くは下関市や宇部市・山口市の方もおられました。

配役は、事前に希望が取られていたようで、主役はもしものことを予測しダブルキャスト(二人役)で、練習は萩会場と山口会場で土曜・日曜を利用して開催されました。

事務局である私達も、一番参加者が集まる土曜日に標準を合わせ、ミュージカルの監修者であるM先生と共に練習に参加しました。最初は、基本的なダンスや発声練習に始まり、中盤になると曲に合わせた踊りやセリフの練習と続きました。

古着集めに邁進・・・

吉田松陰の生涯を1章4部構成、2章4部構成で表現。安政元年(1858)、伊豆下田からペリーの船に、金子重之助と共に法を破って吉田松陰が渡航をする場面からミュージカルが始まります。

私達事務局は、幕末の時代背景をどのように表現できるかを考え、ま

ずは出演者の衣装の確保が、大きな課題となりました。

子どもから大人の衣装を購入するだけの予算はありません。まずは、古着の寄贈を萩市報を通じて住民に呼びかけました。



吉田松陰像

そうすると、住民の反応は多く、男物の袴や羽織、女性物の着物など、結構程度の良い着物類の寄贈が数多く寄せられました。そして、一軒訪問し寄贈品を受け取りました。中には、身内の形見として保管していた貴重な着物もありました。一時期中央公民館に置く場所が無いくらいの物が集まりました。こうして、一つずつ準備が進んでいきました。

また、ミュージカルの出演者と同様に一番大切なのは、それを支える音楽や振付・音響・小道具・大道具などの裏方さんも、自分の仕事を持ちながら奮闘されていたことは忘れられません。

ぶらぶらタモリ

まちあるき



タモリに負けずわが町を紹介

ブラタモリ」ならぬ『ぶらぶらタモリが、わが町を紹介します。

今回は、先に紹介しました全柳寺の中で紹介しました、中山忠光卿の話の続編です。

中山忠光卿の

足どりを辿りて

10月中旬幕末志士の歴史探訪が行われました。今回は弥富全柳寺との関わりの深い「明治天皇の叔父中山忠光卿」の終焉の地を訪ねて参りましたのでご紹介致します。

ご案内のとおり、この中山忠光卿は、文久3年(1863)奈良の十津川の戦いに敗れて、その後長州藩の久坂玄瑞等の人達に救われ、大阪から海舟で瀬戸内海を西に移動し、三田尻(防府)に着いて、陸路を山陰の須佐益田氏を頼りに逃れて参りました。それから弥富の全柳寺にて、20日間滞在しました。そして、国事の

変化を知り、自分の身を僧侶姿に変身し、隠れるようにして元治元年(1864) 10月29日夜に全柳寺を後に旅立ち、西の豊浦の地を求めて山中路(確かな足どりは不明)を逃亡しました。



中山忠光卿

忠光卿は、ようやく豊浦郡田耕に到着して、辺地を転々としていたが、元治元年(1864) 11月15日、田耕村の山中で殺害され、22歳の生涯を終えた、と手元の文献に記録されています。



全柳寺まで乗った駕籠

この中山忠光卿に関わる一連の歴史の史実である、このことは本誌の前月号にてご紹介させていただきしました。

中山忠光卿の

墳墓と御由緒から学ぶ

この度の歴史探訪の当日は、参加者一行で最初に忠光卿終焉の地とする、下関市豊北田耕松崎に到着しました。

この田耕の地は、文献によりますと、下関市豊北(旧豊北町)の東部に位置して、小盆地と言われ、地域の中央を粟野川が流れ、この河川周辺に耕地が分布し、農業に適した地域とされています。

歴史的には、この地域は藩政時代長府藩領に属し、杣地(植林をして材木を作る所)とされている他に、中山忠光卿の終焉(臨終)の地と呼ばれている所です。

私どもは、初めにこの地にある田耕神社に参拝を致しました。当神社は国道435号線に沿った所の田園地帯で山の麓にあつて、長い参道を通り、大きい鳥居を潜って社殿に向います。参拝の後に神社由緒を見ますと、この神社には「中山忠光卿」は祀られていないとされ、この神社は田耕の天神様であると記されていました。でも、明治41年(1908)の神社合併によって、地域内の八幡宮が合祀されていて、田耕神社と改称

されたことにより、地域の守り神として高く信仰されていると記されていました。

中山忠光卿暗殺の地へ

田耕神社から更に国道435号線を北西に進み、田耕の地にそり立つ白滝山(667.6m)を右手に見て粟野方面に約2km位の所の川沿いに「本宮中山神社」があり、参拝を致しました。



田耕中山神社

この本宮中山神社は白滝山の麓にあつて神社側には小道と小川があり、館は険しい山の急斜面の切り立った所に小さめの広場が造成され、その地に本殿や鳥居、そして忠光卿辞世の碑が立ち並んでいます。神社由緒によると、この地が忠光卿暗殺の地であるとされています。



ワ
繁ちゃん

まちの駐在さん



Q：駐在さんは、仕事がお休みの日はあるのですか？休みの日に人が訪ねて来られた時には、どうするのですか？また、休日は何をしていますか？教えてください。

「お答えします」 弥富駐在所：繁田京祐

●駐在所の休日は、基本的に週2日ありますが、曜日が指定されているわけではありません。通常、一般の会社勤めの方々は、土日休みの方が多いと思いますが、駐在所の勤務は、年間を通じて土日に休みがある日は少なく、平日休みがほとんどです。また、駐在所の警察官は、ゴールデンウィークやお盆休み、年末年始等の大型連休はなく、連休中も治安維持のため、パトロール、巡回等行っております。

●休みの日に駐在所へ一般の方が訪ねて来られた場合でも、警察官が駐在所に在所している時は、勤務の時と同様で駐在所でお話を聞いたり、緊急の場合は、装備等を準備してから対応したりすることもあります。警察官がパトロールや外出等で駐在所に在所していない時は、不在の札を事務所の見えやすい位置に提示しておりますので、不在の際は、萩警察署への連絡、または事件、事故等で緊急の場合は110番通報をお願いします。

●休みの日は、家族と買い物や観光で出かけたり、駐在所の自宅で好きな映画や本を見たりしています。また、私はキャンプが趣味なので、弥富に来てから何度か須佐エコロジーキャンプ場でキャンプしています。私は、どちらかというとアウトドアよりですので、外で私服姿の私を見かけた際は、そっと「駐在さん」と声をかけていただくと嬉しいです。



広報すさ



昭和53年2月15日 No. 100 発行所 須佐町役場 印刷所 増山印刷所

人口と戸数
(1月31日現在)

◎人口	5,226人
須佐	3,819人
弥富	1,407人
◎戸数	1,573戸
須佐	1,141戸
弥富	432戸

あの頃の須佐は

40年前の須佐を
振り返る…「広報すさ」



全国的にいろんな風邪がはやり各地方で休校、学級閉鎖といろんなニュースが入る昨今、このようにガッチリとした体でマラソン、何となくまじく、思わず声援を送りたくなる風景です。この意気で寒さを吹飛ばし、もうすぐくる新しい学年に向かって元気に進もう！

記事は、昭和53年2月15日発行の「広報すさ」から

寒さなんが吹飛ばせ！
さあがんばろう
イッチ、ニイ、イッチ、ニイ

このコーナーは、元気だった頃の須佐町を「広報すさ」から引用し、住民の皆さんに当時の元気な姿を届けたいと思います。今回は、寒さの中のマラソン風景の写真を紹介します。見てのとおり男性は皆、上半身裸で走っていたんですね…。



国指定名勝及び天然記念物「須佐湾」らぶ 指定地域案内図

■は指定地域



現状変更行為とは・・・

- ・建築物（工作物）の新築、増改築または除去等
- ・土地の形状の変更
- ・文化財の管理に必要な施設の設置、改修または除去
- ・埋設されている電線、ガス管、水道管または下水管の改修
- ・木竹の伐採、土石類の採取等

無許可による現状変更行為は法に基づき罰せられるおそれがあります。

郷土の文化財を守るため、みなさんのご理解とご協力をお願いします。



郷土の文化財を守るため

みなさんのご理解とご協力をおねがいします。
(問い合わせ先)

萩市歴史まちづくり部文化財保護課

TEL 0838-25-3299

須佐公民館 TEL 08387-6-2310

文化財を守ろう

萩市には、国指定（選択・選定・登録を含む）54件、県指定32件、市指定137件、計223件の文化財があります。須佐地域に係るものとしては、国指定3件、県指定2件、市指定24件、計29件の文化財があります。

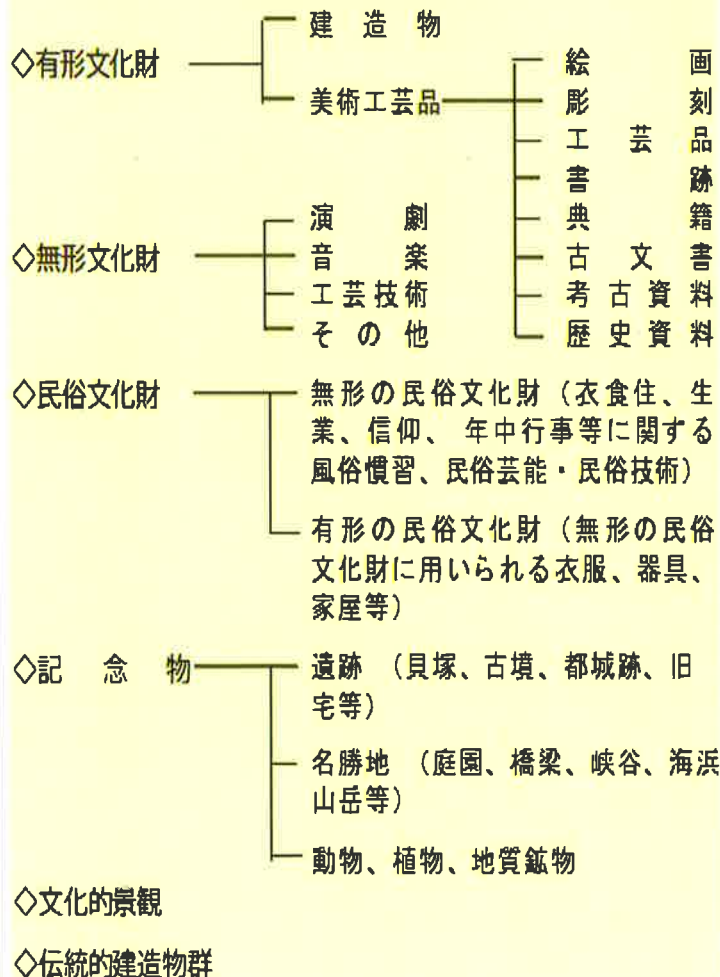
文化財は地域の宝であり、みんなで守って後世に伝えていくことが大切です。

文化財保護法第125条により、史跡、名勝、天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為を使用とするときは、文化庁長官（又は萩市教育委員会）の許可を受けなければなりません。

特に国指定名勝及び天然記念物「須佐湾・高山」においては、指定範囲も広く、自然の特色を豊富に有していることから、保存管理計画を作成し、これに基づいて保存管理を行っているところから、保存管理計画

文化財の指定地域で、先のような行為を行うことが見込まれる場合は、事業計画を作成する段階で事前に須佐公民館までご連絡ください。

文化財保護の体系



生涯学習作品コーナー

【俳句】

孫二人に腕支えられ初詣

（山根丁東） ゆめはるか

【短歌】

膝痛むここだと押さえ薬塗り

朽ちた身体を撫でて労る

（青葉台） 田村雅利

葉牡丹の赤青黄色にほのぼのと

幼児のように微笑むごとく

（山根丁東） ゆめはるか



気もそぞろGゴルフ打ちおさめ

焼きいも作りお楽しみ

初詣犬だけ晴れ着ジジとババ

願いはひとついつもと同じ

とし初め大台の我こころする

いかに遊ぶか如何に食すか

1月は犬も我も誕生日

やっと2歳と80半ば

新年の寒い毎日ふと思う

今年も春がすぐ夏になるかと

老人クラブ 美男美女会

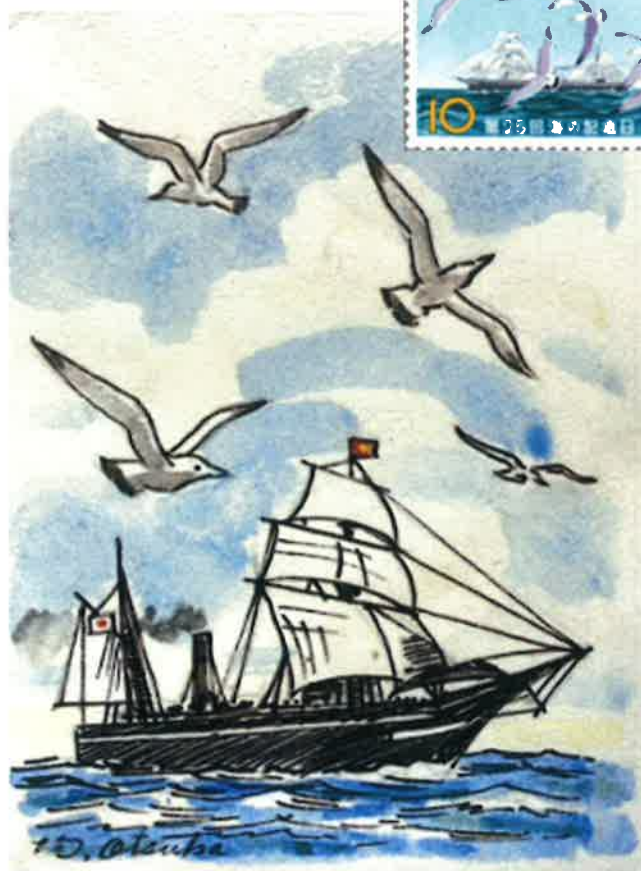


須佐の偉人伝 大塚均

95

このコーナーでは、切手デザインの大家である大塚均（山根丁東出身）さんがデザインされた約120点の作品を随時紹介しています。

切手カバー図案も合わせてお楽しみ下さい。



大塚 均 (1911-1998)

第25回海の記念日切手 「明治丸とウミネコ」

昭和16年6月5日次官会議において「海の記念日」制定を決定。

昭和16年7月20日第1回「海の記念日」。「7月20日」は、明治天皇が明治9年東北ご巡幸の帰途、灯台視察船 明治丸 で、青森から函館を経て横浜にご安着された日に由来。

昭和40年7月1日5円第25回海の日記念切手が発行された。大塚均54歳時の作品です。

2025		2月 地域カレンダー		須=須佐公民館 =学校・保育園行事 =子ども対象行事	弥=弥富公民館 =スポーツ関係 弥G=弥富グラウンド	☺=生き生き教室 保セ=保健センター
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
「ひな人形展」 3/1(土)～4/6(日) 場所：須佐歴史民俗資料館「益田館」 						1
2 	3 ☺麻雀クラブ 13:00 ☺ピンポンクラブ 13:30	4 ■心配ごと相談(保セ)	5 ☺つどい会 10:00 学須佐保岡の子大会	6 ●育英小仮入学	7	8 ●須佐中オープン スクール:志宣言
9 ●体力づくり スケートツアー 8:30	10 ☺エコクラブ 9:30 ●物作り教室 9:30 ☺麻雀クラブ 13:00 ☺ピンポン 13:30	11 ●建国記念日	12 ☺歩こう会 8:45 ●色えんぴつ画 13:30	13 ●育英小参観日	14 ☺手芸クラブ 9:30 ☺囲碁・将棋 13:30 ●Gゴルフを楽しむ 9:30 ■無料法律相談(保セ)	15 
16 家庭の日	17 ☺麻雀クラブ 13:00 ☺ピンポン 13:30	18 ●須佐あおば勉強室 13:30 学須佐中入学説明会 子育て講話	19 	20 ☺生き生き体操 8:45	21	22
23 ●天皇誕生日	24 振替休日	25 ☺エコクラブ 9:30	26 ●色えんぴつ画 9:30 ●Gゴルフを楽しむ会 9:30 ●音楽療法 13:30 ●放課後教室 13:30	27 	28 ☺手芸クラブ 9:30 ☺囲碁・将棋 13:30	

エンジョイ グラウンドゴルフ大会

○日時 3月2日(日)
午前9時開会
※雨天の場合
室内グラウンドゴルフ

○場所 育英小学校

是非、多くの参加を!

●弥富物作り教室
「こけ玉作りに挑戦!」
○とき 2月10日(月)
午前9時30分から

○ところ 弥富交流促進センター

○講師 齊藤洋子(9区)

○参加費 300円

○申込み 2月5日(金)までに
弥富公民館 ☎2044へ

●須佐あおば勉強室
「シンプルライフ
を目指す整理収納」
○とき 2月18日(火)
午後1時30分から

○ところ 須佐公民館

○講師 整理収納アドバイザー
矢吹信子

○参加費 300円(冊子代)

○申込み 2月12日(水)までに
須佐公民館 ☎2310へ

伝言板



毎月第3日曜日は「家庭の日」
今月は『16日』です
★家族みんなで過ごしましょう!

須佐地域の人口 (R6.12月末現在)			
	世帯数	人口	前月比
須佐	926戸	1,657人	(△7人)
弥富	214戸	400人	(△1人)
合計	1,140戸	2,057人	(△8人)
昨年比	世帯数△32人		人数△61人

編集後記

1月は行く、2月は逃げる、3月去ると季節の早さが目まぐるしく変化するとともに、季節も春が、そして暑い夏が、そして秋、冬へと変化し、もう一年が終わったと嘆く日が年齢を追うごとに早くなったと感じているようになりました。

ある方が言われました。それは、歳を追うごとに分母(分数の下の部分)が増えるから、60歳の人を10歳の人とは36日。60歳の人は6日と、歳をとると感じる日数が少なるからだと言われていました。

一日一日を有意義に過ごしたら感じ方も少しは違うのかも知れませんね。